

皇 學 館

学園報 第72号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 大学院 専攻科 〒516-8555
文学部 教育学部 三重県伊勢市神田久志本町1704
現代日本社会学部 TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中 学 校 三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)



「稽古照今」の精神をもって、特性を生かし切る

学 長 清 水 潔

人間としての尊厳と品格を備え、国家社会、更に広く国際社会のために貢献することができると二十一世紀の日本を担う日本人の育成です。

平成二十八年五月から検討を重ねてきた将来構想委員会の結論も、時代の要請に対応して、昨年九月法令施行された「公認心理師」国家資格取得のコースを新たに設けることにしました。

実行・点検・改善して三年が過ぎました。今年はこの点検評価の上に、次期の中期行動計画を策定する予定です。

「稽古照今」の精神をもって、自らの個性を堅持し、特性を生かし切る先に、本学の明るい将来が拓けると確信します。

皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



新たな覚悟をもって前進

理事長 佐 古 一 洌

平成三十年の初春を迎え、聖寿の弥栄と皇室のご安泰を心より祝し、かつ、お祈り申し上げる次第であります。

ご承知の通り本年は、明治維新百五十年の記念すべき年であります。明治維新は、端的に表現すれば、日本の政治的な独立の為、次いで経済的な独立を守る為、そして三つの目的が、文化的な独立を守る為に断行され、優れた先人の懸命な努力精進を得て、見事その方向へ歩んでいったのであります。

伊勢神道の言葉に、「元々本々」——は

じめをはじめとし、本を本とする、という名言があります。我々は今年、明治維新の原点に立ちかえって、日本の将来に思いを致すことが大切であります。

特に吾が皇學館の創立は、その明治十五年に、そして大学建学の精神は、同三十三年賀陽宮邦憲王の令旨によって確立されました。

我々は、この事を再認識し、新たな覚悟をもって前進せねばなりません。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶 ～平成三十年を迎えて～

大学にとって、今年は本格的な大学淘汰の時代が始まる年。とりわけ地方文系小規模大学の危機が叫ばれるなか、本学が目指す教育ビジョンは、建学の精神に示された伝統的学風を継承しながら、地(知)の特性を生かした「皇学・日本学の拠点」として、また「地(知)の拠点」としての大学像を実現することにあります。育成すべき人材像は、

が、基本的な教学体制には変更がないことを確認しました。

むしろ今後求められるのは、現状の学部学科の教育の質の保証と向上であり、国際化推進・グローバル化対応です。そのことを強く意識して、平成二十六年に作成した「中期行動計画」は、今後五カ年に実現すべき百項目からなる教学上の具体的目標を明示し、既に

日本スプリント学会 第二十八回大会を開催して

教育学部教授・大会運営委員長 小木曾 一之



9秒台への経緯を語る桐生さん

二〇二〇年の東京オリンピックに前後して、三重県では二〇一八年に全国高校総体、二〇二〇年に全日本中学校陸上競技選手権大会、二〇二一年には国民体育大会が開催されます。そのような中、「日本スプリント学会第二十八回大会」が「個の能力を伸ばすためにRoad to Tokyo, and the Future」というテーマのもと、十二月九日(土)から十日(日)にかけて、本学教育学会と共同で開催されました。

学会では二日間で開催された一三七名の参加の下、二関節筋の熊本水頼先生、神経筋の森谷敏夫先生(ともに京都大学名誉教授)といっ

た世界的権威である先生方の特別講演をはじめ、身体運動にかかわる最先端の研究結果が報告されました。教育学会会員も延べ一三一名、その他の学生も延べ二十九名が参加してくれましたが、彼ら彼女らにとっても、学術書の中でしか見ることのなかった先生方の講演を間近で見ることができ、とても有意義であったと思います。

また、この学会の特色である「理論だけではなく、実践面とも結びつけて考える」姿勢も多くのスポーツに関わっている学生にとって参考になったと思います。特に、日本人で初めて一〇〇m九秒台を記録した桐生祥秀さん(東洋大学)やリオオリンピック・ロンドン世界陸上の四〇〇mリレーでメダルを獲得した飯塚翔太さん(ミズノ)、藤光

謙司さん(ゼンリン)が本学会に駆けつけてくれ、世界と戦った者でしかわからない貴重な話をしてくれました。

とかく倉田山の中だけで物事を考えやすい本学ですが、今回の学会は日本や世界を見据えるチャンスに参加した多くの学生に与えてくれたと思います。本学会の内容に刺激を受け、今後ますます広い世界に向けた活動や研究を行っていく動機づけが高まれば、本学にとってもこの学会は成功であったと思います。

最後に、本学会に協力してくださった本学関係者の皆様、三重陸上競技協会の皆様、そして教育学会の皆様へ深く感謝申し上げます。

写真/児玉育美

注目記事

- 2面 地域連携トピックスVol.5 行動・経験の大切さを実感
- 3面 中国社会科学院日本研究所・皇學館大学共催シンポジウム「東アジアから見た宗教と伝統文化の回顧と展望」開催
- 4面 内定者VOICE 公務員・一般企業編
- 5面 皇學館高校・中学校 卒業生随想
- 6面 ご挨拶 中・高等学校長 上村桂一
- 7面 「皇學館みえこども学びプロジェクト2017」を開催
- 8面 東海駅伝で77年ぶりに優勝! 駅伝競走部
- シリーズ
- 3面 皇學館ライブラリー **NEW!**

倉田 山 春秋

人を相手にする仕事は、どれだけ相手に寄り添えるかにかかっていると思う▼ある取組みの執行状況について注意喚起を知らせるメールが届いた。一週間前に関係書類を提出していたので、うまく取扱われていないのかと驚いて問合せの電話をした▼ところが、担当氏はすぐに「提出されています」の返事。簡単に探せる書類を見ずに、機械的にメールを送ったというわけだ。事情を訴えても定められた日の状況だからの一点張り▼同じようなことを学生諸君に對してやってはいないかと反省した。未提出だからと頭ごなしに叱りつけたところ、提出先のレポートボックスを間違えていただけ、ということもある▼形式的に検索し、その結果を送るだけなら機械でも十分可能なのは各種の予約システムで経験済みだ▼人がする仕事はそこに一手間かけて、その間に相手が何らかの対応をしているのではないかと、事情があるのではないかという想像力を働かせ、それを承知しているという一言を添えるだけで仕事は大きな効果を生む▼人を相手にする学校という場ではそうした心配りが大切だと感じさせられる出来事だった。

地域連携トピックス Vol.5

行動・経験の大切さを実感

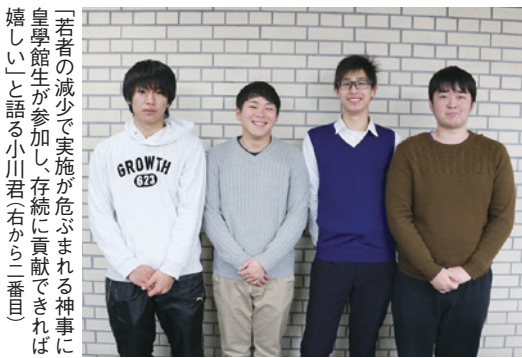
CLL活動レポート

国崎二船祭。プログラム

自分のやりたいことが見えてきた

国文学科三年 小川 修平

CLL活動の一環で、十一月二十三日に鳥羽市国崎町で行われた「二船祭」取材した。「二船祭」は国崎の若者が海間谷と里谷の二地区に分かれ、二隻の船に乗りその速さを競う神事である。豊漁を願う勇壮な祭りでもあった。漕ぎ手以上に熱くなった観衆が里谷側の六戦全勝という結果に納得できず船を海に戻しやり直しさせる場面もあり、生業である漁業に対する思い、この神事の意義が少しわかった気がする。取材にあたっては、祭事、儀礼、伝統を自分の目で見て感じ、地方の祭りがどのような現状なのか、事実を記録するよう心掛けた。



実際にいくと、「こんなに盛り上がる祭りがあったのか」と驚いた。見どころは何と云っても熱い勝負。船頭たちの掛け声



記録を兼ねた取材だけではなく、今回は国文学科3年の北昌一郎君(海間谷チーム)と同 矢賀太郎君(里谷側チーム)が漕ぎ手として参加

たほだ。また、参加されていた鳥羽市役所の方が仕事のやりがいだけでなく、苦勞など裏側の話まで包み隠さず質問に答えてくれたこともありがなかった。

私は志摩市に住んでいるが、CLL活動に参加していなければ「二船祭」の存在を知らないままでいただろう。正直、最初は面倒に思うところもあった。だが、今回の経験を経て、未知のものに対して取組む前にあれこれ

判断を下すのは間違いだとわかった。まず行動を起こしきちんと向き合えば、どのようなことも案外楽しいと気付けたことは大きな収穫だ。

今までのような仕事をしようか悩んでばかりいたが、「未知のことを知りた」と、それを誰かに伝えたい」という気持ちが強くなった。丁寧に面白く伝えることで興味を持つてくれる人が増えたら、祭りをはじめ地域文化の存続にもつながると思う。

産学官連携日本酒プロジェクト

いろんな人と関わる中で成長

神道学科三年 秋山 実愛

元々日本酒に興味があり、またパリで開かれる日本酒PRイベントに出席したいと思い、プロジェクトに参加した。参加してよかった点は三つ。

一つは神道と日本酒の関わりについて学べたこと。六次産業化という目標に向けビジネスとして実践的に取り組めたこと。そして何より、活動を通して自身が成長できたことだ。



明和町の旭酒造にて(手前が秋山さん)

六次産業化について言えば、成功させるには商品価値を高めるだけでなく、観光をはじめとする幅広い経済活動と関わることが大切だと思う。このプロジェクトは産学官が連携しているため様々な社会人の方と接する機会が多く、これから先の人生を考える上でとても参考になるお話、貴重なアドバイスを多くいただいたことにも感謝したい。また、人前で話す



活発な議論を展開

ことが苦手な私にとって自己紹介すら難しかったが、このプロジェクトを通していろんな方と関わる中で、自分の考えや思いをきちんと言葉にして伝える大切さを実感した。当たり前のことだが私が私にできていなかったことなので、これからやりたいことを明確にしてしっかり発言し、実際に結び付けていきたい。

伊勢志摩地域における

両大学の役割を再確認

第五回 三重大学・皇學館大学合同シンポジウム

第五回三重大学・皇學館大学合同シンポジウムが平成二十九年十二月十七日、鳥羽商工会議所にて鳥羽市長、両大学学長参加のもと開催された。

今回のテーマは「地方創生と大学の役割を伊勢志摩から考える」。近年、地方創生をめぐる動きの中で地方大学にも「地域産業・担い手の育成」といった役割が期待されている。両大学においても大学COC事業とともにCOC+事業が進められている。そこで、両大学がともにフィールドとする伊勢志摩地域での取組から見えてきた成果と課題について、四名の教員による基調報告とパネルディスカッションから考え合った。

坂本電彦教授(三重大学生物資源学研究所・共生環境学専攻)は地域資源である自然エネルギーを用いた持続可能な地域モデルの創出を高校生や大学生が関係者と一緒に作り上げていく可能性を述べた。松井隆宏准教授(三重大学生物資源学研究所・資源循環学専攻)は行政、大学との連携や学

生と地域社会との結び付きの不足を課題に掲げ、それを解消するために鳥羽市で行ったインタビュー事例を報告した。近藤玲介准教授(皇學館大学教育開発センター)は伊勢志摩の地学環境の特徴を学生や行政、地域とで共有する手段の一つとして、南伊勢町でのドローンを用いた分析の有効性を示した。千田良仁准教授(皇學館大学教育開発センター)は明和町での日本酒づくりのプロセスが農業の六次産業化に留まらない体験的な人材育成に効果的と解説した。

鈴木健一伊勢市長が講演
伊勢志摩定住自立圏共生学
～これからの伊勢～

一月十八日、本学記念講堂において鈴木健一伊勢市長が一年生およそ六百八十名を対象に第十五回伊勢志摩定住自立圏共生学を開講した。

「伊勢の紹介」「これからの伊勢」私のまちづくりの三部構成で市政運営について語った伊勢市長。人口減少を食い止めるべく「いせ出会い支援センター」を拠点に結婚に向けた相談・出会いの場を提供している現状や災害に備えた地域づくり、小中学生の英検受験一回無料化を実施し受験率が大幅にアップしたこと、地域福祉の推進を図るためコミュニティソーシャルワーカーを配置したり障がい者雇用率が全国最下位から二十位上がった実績など、具体的な豊富な事例とともに語られるので、英検受験に補助金を拠出するなどグローバル教育に力を注いでいる点も勉強になった」と語った。現代日本社会学科一年の井上綾乃さんは「これまで伊勢について観光地のイメージしかなかったが、今日は町づくりなど充実した取組みについて知ることができた。将来は福祉関係に進もうと思っているので、とても参考になった」と話していた。



学生のうちに多彩な経験を積んでほしいと語りかける鈴木市長

「日本史がおもしろくなる日本酒の話」

第47回 現代日本塾



日本酒を軸とした日本文化の研究者でもある上杉氏

平成二十九年十二月二十一日に開催された第四十七回現代日本塾は「日本史がおもしろくなる日本酒の話」と題して、日本酒プロデューサーの上杉孝久氏にお話しいただいた。

上杉氏は、上杉謙信、上杉鷹山を輩出した上杉家の分家、上杉子爵家の九代目当主で、貴重な上杉家関係資料を山形県米沢市に寄贈したことも知られる。他方で、日本文化を世界に発信することで「日本酒ブーム」の火付け役ともなった。

今回の講演では、古代から説き起こして、日本の歴史と日本酒が如何に深く関係してきたかについてお話いただいた。古代の役人の給料は酒だったこと。室町時代に常識を覆す美酒が登場したこと。江戸時代の参勤交代が全国の酒のクオリティを大幅に上げたことなど、興味深い話題満載だったが、残念ながら時間の関係で近代以降のお話は伺うことができなかった。是非、もう一度来ていただいて、続きをお聞きたいと思う。なお、講演の前に、百五総研の荒木社長、伊勢萬の濱田社長と交流していたのも意義深かった。

現代日本社会学部教授

新田 均



協定書を交換した日本研究所の高洪所長(右)と本学の河野副学長

平成二十九年十一月十二日に中国社会科学学院日本研究所において、「東アジアから見た宗教と伝統文化の回顧と展望」と題するシンポジウムが開催され、本学からは河野副学長・櫻井治男教授・新田均教授・松下道信准教授・堀内淳一准教授・森谷香里事務職員と私(佐野)が出席した。このシンポジウムは、皇學館大学のプロジェクト研究として社会科学学院日本研究所と共同で進められている「東アジアの宗教研究と伝統文化研究」の一環として開催されたもの

である。なお、本年は、本学と中国社会科学学院日本研究所との学術交流協定の更新の年にあたるため、シンポジウムの開会に先立ち協定書の交換式も執り行われた。

シンポジウムは午前九時に開会され、日本研究所の高洪所長と本学の河野副学長の挨拶の後に、社会科学学院世界宗教研究所の楊曾文氏が「浙江径山と中日仏教文化交流」、本学の櫻井教授が「日本の地域コミュニティと神社」、日本研究所元所長の蔣立峰氏が「中国と日本における古代宗教と文化

「東アジアから見た宗教と伝統文化の回顧と展望」開催

皇學館大学研究開発推進センター助教 佐野 真人

の研究」と題して基調講演を行った。

昼食後は、十一名の研究発表が行われた。これには本学と日本研究所の研究者のほかに、北京大学・清華大学・復旦大学・北京第二外国语学院の日

本研究者も登壇した。具体的な内容は、宗教にみる日本への中国文化の輸入、中国上代文学の文体と漢訳仏典の比較、日本僧の奮然が宋の皇帝に献

上した「王年代記」について、遣隋使の国書からみた東アジアの文化伝播、小泉八雲と周作人の日本文化論の比較、大日

本帝国憲法の基本構造、妙見神と真武神像の関係、日本の金属神話、精神修養としての禅、宗教儀礼としての茶道の実践と影響など、古代から続く日中交流史から近現代の文化に至るまで、幅広く

実際に中身の濃い内容であった。発表の終了後には、それぞれの発表に対する質問や討論・意見交換が行われた。最後に櫻井教授と蔣立峰氏によるシンポジウム全体の総括があり、午後五時三十分過ぎに閉会した。

その後、懇親会が開催され、討論の時間が少なかったため懇親会の席上ではさらに活発な議論が夜遅くまで続けられた。

また、十三日には北京市内にある皇帝祭祀に関する太廟・社稷壇・地壇、チベット仏教の雍和宮などの宗教史跡を中心とした見学会が行われた。



シンポジウム会場の様子

本を通じ広がる交流

チャレンジプロジェクト活動報告

平成二十九年年度チャレンジプロジェクトの一つである「伊勢河崎一箱古

本市」が昨年十一月二十六日、伊勢河崎商人館にて開かれた。主催者である本学図書館サ

ークル「ふみくら倶楽部」代表の中井美月さん(国文三年)に活動の様子を伺った。

当日の活動

内容を教えてくださいます。

木箱に私たちが選んだ本を詰めて設置し、い

ろんな人に読んでもらい交流を深める「本棚プロジェクト」をメインに取り組みました。ほか、本の搬入のお手伝いや店番、ビブリオバトル、後片付けなども行いました。

伊勢河崎一箱古本市を開いた感想は?

本棚プロジェクトという新しい企画を参加者の方々が温かく受け入れてくださった、目的であった本を通じた交流も実現できたので、とても楽しい時間を過ごすことができました。

一箱古本市の魅力、面白さとは?

普段の生活の中では出会えないような人と出会える、本を持ち寄るだけで交流ができる点だと思っています。

印象に残った出会いがあれば教えてください。

私の購入した本が偶然店主の夫の自費出版本だったことから、非常に喜

ばれました。興味をひいた点など買った理由を作家本人に伝える機会は滅多にないので、とても印象深かったです。

学んだことを、今後どのように生かしていきたいですか?

交流や会話のきっかけは本などに小さなことでいいのだとわかりました。相手の好きなもの・ことに歩み寄る、自分か

利用者が三割増。初年次の図書館ガイダンスが奏功



知的コミュニケーションの場となっている図書館

平成二十六年三月、附属図書館内にラーニング commons が設置された。その目的は、学生が主体的に学修する知的コミュニケーション空間を提供することである。図書館が所蔵している様々な情報資源を活用しながら、自由に議論し、共に学び合う場として利用できる機能を備えた図書館の創出は、今の大学図書館の動向を反映したものであった。

今回はラーニング commons 設置以降の図書館の利用状況について、図書館の新しい取組みと併せて紹介したい。

まず、平成二十六年年度の総入館者数は十萬九千七百七十七人、翌二十七年年度は十二萬二千五百八十八人と大きく利用者が増加した。その後も二十八年年度には十四萬三千三百六十六人のぼり、この三年間で三〇・五%の利用増という右肩上がりの状況

が継続している。その背景には平成二十六年年度から実施している「初年次ゼミ図書館ガイダンス」の効果があると考えられる。

このガイダンスは、学部一年次生の初年次ゼミの1コマを活用し、図書館ラーニング commons スペースを貸し切り、PCなどの情報機器を活用して行うゲーム形式の利用ガイダンスである。早期段階から学生が図書館に足を運ぶ機会を作ること、学生にとって図書館が数居の高い所ではなく気軽に利用できる所にするという狙いで、平成二十八年年度からは全学部学科を対象に実施している。そういった取組みの成果もあってか、ラーニング commons 利用者数は、平成二十六年年度三萬九千八百九十九人から二十八年年度には五萬二千二百九十九人となり、三年間で三三%の利用増となった。またガイダンスではノートパソコン・スマホを図書館内で貸出・利用できることを周知徹底しているため、ノートパソコンの貸出件数も平成二十六年度三、八四件から二十八年度は一萬三千八百一〇件と飛躍的に増加している。

図書館はこれからも初年次ゼミ図書館ガイダンスを始めとする様々な企画を実施することで、図書館が学生にとって居心地の良い学習の場となるよう努めていくつもりである。

「一箱古本市」：「みかん箱サイズの箱一つ」程度の古本を参加者が持ち寄り、ゆるやかに交流をしながら古本を販売するフリーマーケット。二〇〇五年に東京の通称谷根千界隈で行われた「不忍ブックストリート」に始まり、今では全国各地で開催されている。

内定者VOICE

今回は、公務員、一般企業の内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

①志望理由 ②活用した制度 ③将来の抱負

公務員編

福井善大(国史)

【内定先】警視庁



①真面目な性格に合うと感じたこと。また、自分の実力がどこまで通じるか試してみたかった。

②就職支援室でエントリーシートや履歴書の書き方、自己PRについて何度も文章を直していただいたり、友人に相談に乗ってもらった。③学生のとき以上に視野を広く持ちたくさんの経験を積み

たい。また、やる気と根性でどんなことにも立ち向かっていきたいと思う。

山本龍星(コミュ)

【内定先】三重県警察



①人から感謝され、県民の治安を維持し守りたいと思った。②大原の公務員講座で成長することができた。③信頼され、県民の皆さんが安心、安全に暮らせる町づくりに貢献したい。

奥山玲加(教育)

【内定先】三重県庁(福祉技術・保育士)



①子どもが好きで児童福祉にも興味があり進路に悩んでいたとき、ゼミの先生から保育園だけでなく、児童相談所や三重県子ども心身発達医療センターで保育士として働く仕事もあると教えていただき、療育の面から子どもたちをサポートしたいと思った。②公務員試験対策講座を活用し、三年生の九月から本格的に勉強

強を開始。公務員試験は科目数が多く範囲が広いので計画を立てて取り組むことが大切。復習を欠かさず、模試も積極的に受けた。③子ども一人ひとりと深く関わり、信頼関係を築き心の支えとなる保育士になりたい。どんな子どもたちと出会えるのか、とても楽しみにしている。

福岡孝太(国文)

【内定先】大台町役場



①伊勢志摩定住自立圏共生学で行政の方から地元のために働くやりがいを感じ、自分もめざしたいと思った。②公務員試験対策講座は勉強のやり方や面接対策などを知ることができ参考になった。③自分のように地元に戻

つてきたいと思う人が増える町づくりを実践していきたい。

助田和樹(教育)

【内定先】志摩市役所



①初めは教員をめざしていたが、実習を通して教員の苦勞を知り、子どもだけでなく教員も支えたいと考えた。また、道徳ゼミで地方創生をめざした取り組みを行ううちに市の仕事に興味を持った。

【内定先】個人(前の練習で自分に足りない要素を正確に教えていただき、明確な対策をとることができた。③自分は取り組むまでに時間がかかるので、社会人になってからは何事に対しても迅速に対応できるようにしたい。そして、市の職員として市民や学校のために尽力したい。

渡邊吏香(現日)

【内定先】明和町役場



①産学官連携日本酒プロジェクトを通じて明和町や地域の人々に魅力を感じた。②公務員試験対策講座はテキストの問題と一緒に解くので復習しやすい。明和町に関するイベント、活動に参加して顔を覚えていただいた。③広島県出身という、よそ者としての視点を大

一般企業編

太田帆奈実(国文)

【内定先】株式会社赤福



①伊勢に住み、伊勢のためになる仕事がしたいと思った。②自己PR・面接対策講座を受けたことで、面接で大切なのは普段通りの気持ちを持ち続けることだとわかった。また、就職支援室の方に何度も相談に乗っていただいたおかげで気持ちに余裕が生まれた。③お客

切にしていきたい。また、開始時から関わってきた日本酒プロジェクトについては学生、明和町職員と両方の視点を持つ人材として先輩たちがさらに楽しく成長できるプロジェクトにしていきたい。

福村亜梨沙(コミュ)

【内定先】株式会社エイチ・アイ・エス



①旅行を通じてその場所

ないモノ・ヒトとの出会いを創造し、人々に喜びや感動を届けられる仕事に就きたいと思ったため。②週に一度の就職講座では基本から面接対策まで詳しく教えていただき勉強になった。様々な業種・職種の企業に挑戦したため、その度にエン



山下裕矢(教育)

【内定先】有楽製菓株式会社



①幼い頃から旅行が好きで、出発点の一つである空港で働くことに憧れていた。大学生活では外国の方と積極的に交流し語学力に磨きをかけてきた。それらの交流を通して国内外から多くのお客様が訪れる空港での勤務に益々魅力を感じるようになった。②就職支援室は迷いや悩みがあったときお世話になった。就活を進めるにあたっては不安をその都度解消していくことがとても大切だと思う。集団面接・グループディスカッション実践講座は外部講師の方が指導してくださり本番同様の雰囲気だったので、実際の面接では少し余裕が持てた。③何よりも笑顔

を大切に、お客様にホッとしていただけるお出迎えをしたい。

熱田神宮・実習報告

自ら率先して動く

神道学科二年 木全 春 乃



実家が社家のため、自然と神職を志しました。

た。実習先は熱田神宮、期間は十二月三十日から一月六日までの八日間、お守りの袋詰めや授与品の受け渡し、市内の小中学生対象の書き初め大会の係員をしました。

参加する前は実習中に体調不良にならないようにとだけ考えていましたが、いざ始まってみると周りの状況を見て次に何をすればいいか、自ら率先して動くことが大事だと痛感しました。また、神職の方の作法を間近に見て非常に



実習先の熱田神宮では授与所でお守りの授

与や副斎主を務めました。一番勉強になったのは、心遣い。です。参拝者への対応の仕方や人の流れの作り方など感じています。

心遣いを見習いたい

神道学科二年 葦津 頼 之

して当たり前の気遣いが大切だと再認識しました。昨今、パワースポットとしての神社巡りが人気ですが、その点以外の魅力も伝えていける、かつ、外国人の参拝客に英語で簡単に神社や神道について説明できる神職をめざし、頑張りたいと思います。



心を込めてお守りを授与

ストレス社会といわれる今、先の見えない人生に悩み、神様に助けてほしいと願う人も多いと思います。そうした方々のためにも、神様と人をつなぐ神職という仕事に使命感を持って取り組みたいと考えています。また、今回学んだことを活かし、将来は神社界の発展のみならず、神社の力で地域発展に貢献していきたいと思っています。

皇學館高校
皇學館中学校

卒業生随想

この春、皇學館高校は380名、皇學館中学校は69名が卒業を迎える予定だ。彼らの胸に去来する思いを語ってもらった。

皇學館中学校

69人の個性と団結力で乗り越えてきた

3年A組 白杵 小奈津



3年前の4月、私たちの入学式がありました。初めの頃は、今の私たちからは想像もつかないほどみんな無口で、朝礼も授業も、さらには休み時間までもが誰もいないのかと思うくらい静かでした。

そこからだんだん仲良くなっていき、今ではみんな明るく、静かなときの方が珍しいくらいです。そんな69名で過ごす3年間もう終わりを告げようとしています。いろんな壁にぶつかることもあったけれど、69人の個性と団結力で乗り越えてきました。今までと違い、うまくいかないこともたくさんあると思います。しかし、中学生のときにたくさんの先生方や先輩方から学んだことを生かして頑張っていきます。

行事は絆を深め、確かめる場

3年B組 落合 慶亮



3年前の春、大きなあと思っていた「3年生」という立場に立っていると思うと、3年という時間がとても短く感じられる。

黒板がホワイトボードに変わり、体育大会には縦割り班が、皇中祭にはブックレビューバトルが組み込まれるなど学校自体も大きく変化した中で僕たちはどれだけ成長できただろうか。

成長してきたことを一番実感することができるのはやはり皇中祭だと思う。1年生の時の初めての皇中祭では先生が中心となっていたが、2回目の皇中祭を経て、「3年生」の皇中祭ではほぼ自分たちで成功させることができ、優勝と準優勝を取ることができた。

皇學館中学校は一年を通して行事が多い学校だと思うことがよくあった。そのたくさんの行事は絆を深めるだけでなく、それまで積み重ねてきた絆を確かめる場でもあると思うから後輩たちにも大切にしてほしい。

贈る
言葉

「お宝たち」へ

中学校第3学年主任 岩崎 眞理

「なあなあ、今の1年って元気いいなあ」「そうやなあ。私らあの頃は大人しかったよなあ」「ちがうよ～、みんな猫かぶっとったんやん」(笑)全校集会から教室へ向かう廊下での、微笑ましい一コマです。

そうでした。静まりかえった教室に、大人しすぎるのでは？と、少し心配もしましたが、それも杞憂。日々をめざましく成長し、雨後の筍のごとくに喜怒哀楽の花咲き乱れ、ジェットコースターに雄叫びを上げるがごとき毎日。卒業を前に振り返れば、あっという間の楽しいひと時でした。

1年次から表彰を受けた「皇中祭クラス展示」や「合唱コンクール」の歌声は、着実に進化をとげ、3年でも輝きました。私の選ぶ感動のシーン、トップ3は、①体育大会。小さくて折れそうだった体が、毎日の部活の成果あって逞しく成長。目の前を颯爽と駆け抜ける姿に胸が熱くなりました。②朝スタ。初めての発表は、シートから目が離せず、小声でボソボソ読むのが精一杯でした。しっかり前を見渡し、声を張って発表できるようになったこと、自信を持って下さいね。③修学旅行、沖縄『波上宮』参拝で、二拝二拍手一拝が凜と揃いました。本当に心地よく、心洗われる思いがしました。楠宜さんにも、流石は皇學館中学生と褒めて頂き誇りしかったです。どれも、やるときはやってくれました。

一喜一憂を共にし、どうも客観性の薄い3年間で反省するところですが、きっと卒業後も、私は変わらぬことでしょう。卒業する貴方たちこそが私の誇りであり、喜びだからです。これからもずっと楽しませて頂きますよ。嬉しい活躍を限りなく期待して、お祝いの言葉にさせていただきます。おめでとう。

皇學館高校

全ての経験が成長の糧になる

前総務委員長 3年5組 山本 瑠香



皇學館高校に入学してはや3年が経ち、いよいよ卒業となりました。私はこの3年間、部活動や勉強、校友会活動といった多くの経験をすることができました。その中でもやはり印象深いのは校友会活動です。皇學館高校は生徒一人ひとりの個性が豊かで、そのことが魅力の一つになっているとても素晴らしい学校だと思います。その中で私は校友会活動に携わることができてとてもよかったと思っています。ただ活動の全てが順調に進んだわけではなく、反省点や課題はたくさんありました。しかし、その学びや経験が私の中で成長の糧になっていることは間違いありません。卒業にあたって私が皆さんに伝えたいことは高校3年間は単に卒業を目標にするのではなく、自分の未来を見据えて現在取り組んでいる勉強やクラブ活動など全てに意義を感じ、それを大切にしていってほしいということです。何事も経験がなければ学ぶこともできません。たくさんのことに挑戦し、あの時やっておけばよかったと後で後悔しないように様々な経験を重ねていってくれることを心から願っています。

仲間と共に卒業できることに喜び

前総務副委員長 3年7組 鈴木 優花



皇學館高校に入学し3年が経とうとしています。この3年間で振り返ってみると、様々な出会いがあり、多くの方に支えていただきました。しかし卒業と同時に社会の一員となる私たちは自分で決断し行動していかなければなりません。大きな壁が立ちはだかるかもしれません。けれども私たちには皇學館高校で過ごした3年間で学んだ多くの財産があり、共に協力し合い、共に困難なことを乗り越えてきた仲間がいます。私は高校生活の中でそのようなかけがえのない仲間に出会い、共に卒業を迎えられることを嬉しく思います。卒業してもこの3年間は大切な思い出です。お世話になった先生方、かけがえのない日常と一緒に過ごした仲間たち。そして今後もその仲間たちと数々の困難を乗り越えていくことでしょう。次の世代の私たちがこれからの未来を築き、人を支えていけるような人間へと成長できるように頑張っていきたいと思います。

贈る
言葉

「ベストを尽くせ」

高校第3学年主任 奥山 英樹

入学式直後の学年集会で、「その時、その時、ベストを尽くせ」「みんなはつながっている」「なぜ勉強し、なぜ働くのか」という話をしました。この3年間、伝え方は様々でしたが、学年集会のたびに同じ事を言い続けてきました。そして皆は学校行事や部活動等でそれを実行してきましたね。1年時の漢字テストにおける学年団結キャンペーン、2年時の修学旅行や皇高祭、体育大会における応援合戦、3年時、面接練習や筆記試験対策など、皆が協力し合いながら行動している姿が脳裏に焼き付いています。

受験という大きな壁を乗り越えた人、就職活動で一足先に社会人になる人、この卒業で進路はそれぞれ変わりますが、また新しい一歩を踏み出した点では同じです。どんな時でも、「その時、その時、ベストを尽くせ」が大切です。それができた時、決して後悔することはないでしょう。

また、私が関わっている弓道には「矢を発してあたらなければ、他を怨むような事はなく、かえってこれを己に求めてよく反省せよ」という言葉があります。今後の善し悪しを決めるのは他者ではなく自分次第と心得てください。

さあ卒業です。それぞれの環境で、新たな能力の開発、維持、向上を目指してどんどん活動してください。未来を築いてください。これからも伊勢の地で応援しています。

皇高 NEWS

武道・バドミントン大会を開催

昨年十二月十九日に実施された武道・バドミントン大会。各自の選択科目によってバドミントンと武道(剣道、柔道)に分かれ、それぞれ日頃の練習の成果を発揮した。以下は生徒の感想である。

バドミントン

応援あつての盛り上がり

総務副委員長 瀬田 京子(二年三組)
体育大会が悪天候のために中止になったこともあり、特に三年生は最後のクラスマッチで今まで以上に気合いが入っていました。全学年を通して感じたことは、どの試合を見ても必ず応援をしている人がいるということです。応援の形は様々でしたが、やはり応援してくれる人がいるからこそ試合も盛り上がるのだと感じました。



声援を受け、白熱した戦いが繰り広げられた

武道
選手と会場が一つに

総務委員長 黒田 結規(二年五組)
武道大会は剣道と柔道が行われました。剣道では二名一組になり日本剣道形が披露されました。とても厳肅な雰囲気の中、会場に詰めかけた生徒たちは真剣な表情で演技に見入っていました。柔道は全学年トーナメント方式の個人戦で、試合時間は二分と短いのですが、学年を越えた熱戦が展開されました。会場内は生徒の大声援の熱気で溢れていました。準決勝、決勝と上位に進むほど選手の技のキレや力強さも増し、応援もさらにヒートアップしていきまし



気迫のこもった試合が続く

と会場が一つになった感動的な大会でした。

新校友会役員七名が誕生

十二月十四日に立会演説会・選挙が行われ、七名の新校友会本部役員が誕生した。以下に彼らの抱負を掲げる。

総務委員長

谷水 彩乃(二年B組)

私は校友会本部の総務委員長として学校の運営を全力で行い、生徒全員の模範となるように生活をし、自己管理をしっかりとします。また、今までの経験を糧にこれから一年間七人で協力し、常に新しいことに挑戦します。

総務副委員長

里中 愛華(二年A組)

昨年引き続き校友会本部役員を務めさせていただきます。私は一年間、本部活動を通して「先輩ですごくいいな」と思うことがたくさんありました。これからの一年間は、その先輩方を超える先輩を目指して頑張っていきます。日々の挨拶はもちろん、全ての事に全力をつくします。

前列中央、谷水さんから時計回りに里中さん、ハンズリーさん、天野さん、中村君、清水君、河村君



総務副委員長

河村 隆雅(二年A組)

この学校の代表を務めるの

三年生が沖縄へ修学旅行

昨年十二月六日から八日にかけて、沖縄への修学旅行が実施された。生徒たちは初冬の寒さから一転、暖かい気候の中、沖縄の自然や文化を楽しんだ。

沖縄の美しい自然を満喫

三年A組 尾崎 開

今回の修学旅行はテスト後すぐだったのでワクワクする余裕もなかったが、当日朝早く起き、行きのバスで楽しく話していたら、あつという間に空港に着いた。初めての飛行機は少し緊張したが、空の上から見た沖縄の景色はとても幻想的だった。沖縄はまるで春のように暖かった。最初に訪ねた波上宮から見る海は美しく透き通っている

沖縄の歴史や文化が学べた有意義な時間

三年B組 下倉 万季

一日目はひめゆり平和祈念資料館ですごく心が痛くなった。何千人の中から生き残ることができたのは、たった五人だけと聞いて驚いた。その

す。そのために、まず自分が率先し、何事にも全力で取り組んでいき、全校生徒の手下となるような人になります。

会計

ハンズリー リオ(二年A組)

私は校友会本部役員として、これから生徒皆さんが毎日を楽しめるような学校にしていきたいです。そのために、皆さんの期待を裏切らないように一生懸命活動に取り組めますので、一年間よろしくお願ひします。

書記

中村 連太郎(二年A組)

全校生徒が各行事で活躍できるようにしていきたいです。皇中祭では、学校の伝統文化を残しつつも、新しい事に取り組んでいきたいです。一年間という短い期間ですが、よろしくお願ひします。

会計

清水 悠史(二年B組)

僕は校友会本部役員として温かい笑顔であふれる学校生活を皆さんが送れるようにしたいです。そのためには、校友会の仕事に全力をつくし、皆さんが興味を持てる案をたくさん出せるように真剣に取り組みます。

書記

天野 花梨(二年B組)

私が校友会本部に入ってから、皆が明るく、先輩・後輩の仲がとても良い学校にしたいと考えていま



上/3A 波上宮にて 下/3B 守礼門にて

東海駅伝で七十七年ぶりに優勝！

駅伝競走部

昨年十二月九日に開催された第七十九回東海学生駅伝対校選手権大会において駅伝競走部が七十七年ぶりに優勝。二位に一分四十秒の差をつけ圧勝した。大学三大駅伝のひとつで十月に行われる第三十回出雲全日本大学選抜駅伝競走への出場権も手中に収めた。

一・四・五・六区で区間賞を獲得

またしても快挙！昨年十二月九日に行われた第七十九回東海学生駅伝対校選手権大会(以下、東海駅伝)において本学駅伝競走部が七十七年ぶり二度目の優勝を飾った。四つの区間賞(うち一つは区間新)を獲得し、二位に一分四十秒の差をつける圧巻の内容であった。歴史ある東海駅伝は東海地区ナンバーワンを決める重要な大会である。コースは知多半島の武豊記念緑地公園を起点

に知多半島を時計回りに走り、半田運動公園陸上競技場をゴールとする七区間六三・五キロ。今大会は、全日本大学駅伝において本学が初出場ながら十七位と健闘を見せたことから、他校が「打倒・皇學館」を掲げ並ぶ並ならぬ意気込みで臨んだ。その予測は的中。二区では愛工大・松井駿佑

声援のおかげで頑張れた

日比勝俊監督は「運も味方したとはいえ、愛知県勢らの激走を真つ向から受け止め、高い総合力で勝ち取った勝利」と評価。抜かれても最低限の差に留め、たすきをつないだ学生らの底力あってこそその優勝と称えた。十二月十一日には清水潔学長にこの結果をご報告。新キャプテンの上村一真君は、「皆さんの声援が力になった。おかげで、苦しくて頑張れた」と感謝の言葉を述べた。



胸上げされる田中君

第79回 東海学生駅伝対校選手権(H29.12.9)大会結果

順位	大 学 名	記 録
優勝	皇學館大	3 時間18分38秒
2	愛知工業大 A	3 時間20分18秒
3	名古屋大 A	3 時間22分46秒
4	岐阜経済大 A	3 時間25分30秒
5	至学館大	3 時間25分42秒
6	中京大	3 時間26分27秒
7	東海学園大	3 時間29分15秒
8	愛知教育大	3 時間29分24秒

謝の言葉を述べた。応援といえは、保護者をはじめ裏方として選手たちを支えてくれた駅伝競走部OB、コンクルの合間を縫って全日本大学駅伝に駆け付け盛り上げてくれた皇學館高校吹奏楽部、館友、伊勢市民、三重県民、協賛企業等、学内外挙げての応援に対し、紙面をお借りし改めて御礼申し上げます。なお、この度の優勝で十月に開催される大学三

大学柔道部



三重県柔道体重別選手権大会では大会史上初となる全階級制覇を成し遂げた

階 級	優 勝
60kg級	東 翔 陽 (2史)
66kg級	大 山 諒 真 (3現)
73kg級	長 澤 透 (3現)
81kg級	太郎丸 裕平 (3教)
90kg級	衛 藤 力 也 (1史)
100kg級	牛 丸 了 英 (3文)
100kg超級	井 落 竜 大 (3教)

三 重 県 選 手 権 大 会	男 子	女 子
優 勝	井 落 竜 大 (3教)	浅 井 萌 加 (3教)
1 位	中 村 朱 里 (3教)	田 村 み づ ほ (3史)
2 位		
3 位		

技体の鍛錬に励んでほしい」と話す佐藤武尊部長。主将の大山諒真君(現日三年)は「目標は日本一。今、全国大会に向けて各種予選会が開かれているが、三重県、東海地区で留まるわけにはいかない。もちろん、単に強いだけではなく、勉学や礼儀、人として大切なものを持ち合わせ、『あの皇學館が』と言わせる、いや、『さすが皇學館だ』と思ってもらえるよう、精進を重ねていきたい」と語り、全国を見据えての意気込みを語った。

野村亮太君(国文三年)が全国大学ビブリオバトルに出場

平成二十九年十二月十七日(日)、毎年恒例の大学生によるビブリオバトルの全国大会「全国大学

大駅伝の一つ、出雲全日本大学選抜駅伝競走への出場権を獲得した駅伝競走部。今後のさらなる活躍が期待される。

大駅伝の一つ、出雲全日本大学選抜駅伝競走への出場権を獲得した駅伝競走部。今後のさらなる活躍が期待される。

まってきたツワモノたちが一堂に会する首都決戦において、決勝戦の舞台まで上がるのはなかなか厳しいようである。次年度の大会でのグラ

また、ビブリオバトル普及委員会(<http://www.bibliobattle.jp/>)の代表を筆者が務めていることもあり、首都決戦のトクセッションと決勝戦の司会者として、筆者自身もステージに上がることもあった。昨今はいくつかの国語の教科書にもビブリオバトルが載るようになったが、全国的に見ても着実に普及が進んでいる状況を、関係者の一人としても嬉しく思う。

国文学科准教授 岡野裕行

イベント情報(3月)

- 3月
- 3 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会
古事記と日本書紀における相違点について
毛利正守(文学研究科教授)
 - 10 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む―成務天皇〜応神天皇の段「応神天皇(四)」
白山芳太郎(文学部教授)
 - 17 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 『日本書紀』を読む「崇神天皇(2)」
大島信生(文学部教授)
 - 24 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教―神仏習合と明治維新の神仏分離―
「英彦山における神仏習合と神仏分離」
河野 訓(文学部教授)
 - 31 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 『続日本紀』と『萬葉集』
遠藤慶太(文学部准教授)

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
- 共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、**有料**です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎06-6625-1771)へお願い致します。
- その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願い致します。

皇學館中学校 卒業式

3月17日(土) 10:00~ 皇學館中学校セミナーホール

皇學館高校 卒業式

3月1日(木) 10:30~ 皇學館大学 記念講堂

皇學館大学 学位記・修了証書授与式

3月19日(月) 11:30~ 皇學館大学 記念講堂

祝賀会 14:00~15:30 総合体育館メインアリーナ

※卒業生のご家族の皆様もご参加いただけます。ぜひお越しください。

平成29年度

皇學館大学 卒業記念ミュージカル

レクス王子とふしぎなえほん

★予約不要 ★入場無料
★入場は先着順

毎年大好評の教育学部4年生有志によるミュージカルショー！今回もオリジナルストーリーとなっています。主人公と一緒に大冒険に出かけよう！

津公演 三重県総合文化センター 大ホール
津市一身田上津部田1234 TEL 059-233-1111(代表)

2/25日 開場●13:00 開演●13:30

伊勢公演 皇學館大学記念講堂
伊勢市神田久志本町1704 TEL 0596-22-0201(代表)

3/3日・4日 開場●13:00 開演●13:30

お問い合わせ先
皇學館大学 教育学科研究室
TEL 0596-22-6458(直通)
<http://education.kogakkan-u.ac.jp/musical.html>

編集後記
今号より新シリーズ「皇學館ライブラリー」が始まりました(三面参照)。本学附属図書館は国文学に関する希少な文献のほか、神道学や人文科学を中心に約三十九万冊を所蔵しています。また、知的コミュニケーション空間としての機能も充実しており、昨年度の年間利用者は十四万人を超えました。読書は単に知識の材料を提供するだけである、それを自分のものにするのは思案の力である」とはイギリスの哲学者ジョン・ロックの言葉。学びを深め、自らを高める場として、学生はもとより一般市民の方にも大いに活用してほしいものです。【企画部】